

四川省調査報告

唐 権

総合研究大学院大学

本報告はプロジェクト「中国大陸伝存の日本関係文献・絵画に関する総合調査」の一部として、私が中国四川省にある二大都市（成都と重慶）へ行き、現地の図書館と博物館で調査した結果をまとめたものである。近代以前・以後を問わず、日本関係文献・絵画で中国国内へ移動、流出したものは相当の点数に及んでいるが、一部の漢籍や和刻本を除いては、その実態が解明されていないのが現状である。本調査は、四川省内にある主要な図書館や博物館を訪れ、書籍をはじめ、古文書、絵画などすべて日本と関係するもの（戦前のものを中心に）の有無を確認し、その上に、可能な限り、日本関係の文物などについての関連情報を把握することを目的とする。

揚子江の上流に位置する四川省は、中国西南地域にある省級行政区の一つであり（外の二つは雲南省、貴州省である）、いわば中国の内地に属する地域である。中国の沿海地域と較べて、比較的に閉鎖的な側面を有している。成都是四川省の官庁所在地で、いわば政治的な中心地である。一方、工業都市の重慶は中央政府の直轄都市であり、今では中国で人口の最も多い都市の一つである。重慶はまた1939～45年には国民党時代の臨時首都であり、同地域の経済、政治と文化の中心地であった。二つの都市は中国西南地域のもっとも重要な都市であるといえる。

四川省と日本の歴史的関係をみれば、一部の日中文化交流史の中に、四川省は主要な地位を占めていない。中国の奥地に位置し、日本どころか、四川省以外の地域との交通もたいへん不便であったので、歴史的に見れば、四川省と日本との交流は極めて少なかった。近代に入って日本人として初めて四川省を訪れたのはおそらく竹添進一郎（1842～1917。号は井井）であり、外交官である彼は明治9年に四川省を旅行し、帰国後『棧雲峡雨日記並詩草』を著した。この旅行記を研究した竹内実は、竹添の四川旅行を後のエベレスト登頂に匹敵できる「壮挙」と称しているほどである（竹内実『日本人にとっての中国像』）。また、竹添以後の日中文化交流史の中にも、四川省の存在は薄く、特筆すべきことは少なかった。とにかく、重慶と成都の両都市は中国の重要な都市であるが、日本との交流の歴史において、手がかりの少ないのが現状である。

その数少ない手がかりの中において、楊守敬（1839～1915）と黎庶昌（1837～1897）は特に注目すべき人物だろう。黎は1881年と1887年二度にわたり駐日本大使に出任し、日本に六年間滞在していたのであり、楊は1881～1884年の間、彼の部下であった。日本滞在中に、二

人が精力的に中国の散逸した古籍を集め、『古逸叢書』（26種 200巻）を編纂、刊行したのは周知の事実である。二人はいうまでもなく、明治以来日本の文物が中国へ流入した過程でもっとも重要な人物であり、また楊が収集した京都の高山寺文書が近年湖北で見つかったことも考慮すれば、二人が日本から帰国した後に暮らしていた場所の重要性が浮かび上がってくるのである。楊の活動地域は彼の故郷である湖北省及び北京だが、一方の黎は1890年日本での職務を終えた後、四川省東部地域の行政長官「川東道」を転任し、重慶に駐在していた（黎、楊の略歴について『中国歴史大辞典』（清史・下）を参照。上海辞書出版社 1992）。従って、重慶と成都是日本関連の文物を調査する必要性を十分有する場所であると思われる。

先行研究 本調査に先立って、王宝平が中国大陸にある68の図書館に所蔵する漢籍と和刻本を調査し、またその調査結果を『中国館蔵和刻本漢籍書目』（1995）と『中国館蔵日人漢文書目』（1997）に収めて公表したのである。王の調査には、四川省内の五つの図書館が含まれており、そしてかなりの和刻本漢籍が所蔵されていることも明らかになった。『中国館蔵和刻本漢籍書目』に掲載されている詳細は次の如くである。

四川省図書館 : 142種
重慶市図書館 : 51種
四川大学図書館 : 26種
北碚市図書館 : 11種
成都市図書館 : 5種

王の調査成果を踏まえて、本調査はさらに博物館まで視野に入れ、そして漢籍のみならず、書籍以外、例えば絵画などの文物をも精力的に確認することに力を注いだ。

調査場所の設定 重慶と成都には図書館や博物館が多数あるが、中でも歴史が比較的古く、豊富な所蔵を有することを条件に、つぎの場所を調査対象と決めた。

重慶：重慶市図書館、重慶市博物館

成都：四川省図書館、四川省博物館、成都市図書館、四川大学図書館、
四川大学博物館 四川省社会科学院図書館

なお、上記場所の設定は、1998年に国際日本文化研究センターの客員教授として来日していた四川大学歴史文化学院霍巍教授（同大学博物館館長も兼任）の貴重な提言によって決めたものである。

調査の方法 調査は次の方法で行われた。

- ①各図書館、博物館の責任者と連絡を取り、日本関係の文献・文物の有無を確認する。
- ②日本関係のものがあると確認された場合、図書館（あるいは博物館）の所蔵目録を調べ、関連情報を入手する。また現物の閲覧を申請し、できるだけ目を通して確認する。
- ③調査現場の責任者を再度インタビューし、古籍や文物の来歴、入館の経緯などを詳しく聞く。

調査の経過　　これまで三回にわたり重慶と成都へ行き、調査した。各場所での調査が行われた期日及び面会者の名前と職務は次の通りである。

調査地	期日	面会者
①重慶市図書館	1998年12月21～22日	屈礼萍（歴史資料部）
	2000年9月20～23日	徐光煦（歴史文献中心）
②重慶市博物館	1998年12月22日	黄曉東（副館長）
		胡昌健（保管部）
③成都市図書館	1998年12月24日	陳実華（副館長）
④四川省図書館	1998年12月25日	彭邦明（期刊部）
⑤四川大学図書館	1998年12月26日	陳力（館長）
⑥四川省社会科学 学院図書館	1999年12月14日	陳徳言（文献情報中心主任）
⑦四川省博物館	1999年12月15日	高大倫（館長）
⑧四川大学博物館	1999年12月16日	霍巍（館長）

調査所見　　調査した八ヶ所の中で、日本に関係する書籍や文物の所蔵が発見されていないのは、次の三ヶ所である。

①重慶市博物館 ②四川省社会科学院図書館 ③四川省博物館

調査を行ったが、王宝平の調査結果と比べて新しい発見がなかったのは次の二ヶ所である。

①成都市図書館 ②四川省図書館

上記の四川省図書館の場合、王宝平の調査で142種の漢籍和刻本の存在が確認され、四川省の中でもっとも多く所蔵しているところだが、本調査を行った時点で、あいにく閉館中であったために、図書館側の責任者（彭邦明氏）の訪問を除いて、目録の精査及び本の閲覧はできなかった（同図書館は新館建設中であり、すべての貴重図書が梱包されているので、調査が不可能である）。

一方の四川大学図書館において、図書館側が提供した数字（和刻本漢籍26種、日本人が書いた漢文27種）を見たところ、王宝平の調査結果と同じであった。しかし、同館の陳力館長にインタビューした時に、さらに次の事実が分かったのである。即ち、同図書館に戦前日本の外交文書が所蔵されていることである。その外交文書は——陳館長の紹介によると——駐成都日本領事館のもので、時代は大正10年前後である。また文書の内容は当時日本領事館が収集した四川省の軍事、政治などの情報であるようである。そしてそれを理由に、同文書は未だに一般公開されず、閲覧も禁じられているので、今回の調査でそれに直接目を通すことはできなかった。

そして、今回の調査でもっとも力を入れたのは重慶市図書館である。すでに述べたように、重慶は黎庶昌の関係上重要な場所であり、また重慶市図書館も歴史のある図書館として知られているためである。同図書館は、1940年代に国民党政府によって設立され、当時ルーズベルト図書館と呼ばれていた。現在、同図書館は古籍と第二次世界大戦中の出版物が豊富に所

蔵されていることから中国国内の図書館の中でも屈指のものである。さらに、同図書館で古籍の管理を担当しているスタッフ屈礼萍氏の紹介によると、歴史史料部に黎庶昌の著作数種類が所蔵され、いずれも黎の後人が寄付したようであるので、重慶図書館での調査は黎庶昌、楊守敬ゆかりのものを探することに焦点をあてた。

同図書館の図書目録はカード式のみで、しかも一般読者用と内部用の二種類に分かれている。一回目の調査（1998年12月21～22日）は、一般読者用のカードを使って調べたが、結果は出せなかった。二回目の調査（2000年9月20～23日）は図書館側の協力を得て、内部用のカードを使うことが許可され、日本関係の図書を全面調査することが出来た。この調査によって、次の二点が明らかになった。

- ①重慶図書館に日本関係の書籍が多く所蔵され、王宝平の調査はその一部しか反映していなかった。王氏の調査には51種しか掲載されていないのに対して、付録1の「重慶市図書館歴史文献中心所蔵日本関係書目」では100種を越えている（もちろん戦前のもので含まれたのが大きな理由だろう）。この書目の中で、重複しているものは2,3種ある。また、付録1は同図書館内部用のカード目録によって作成したものであるため、カードに書かれたままにしたのである。
- ②付録1の中に、黎庶昌が書いたもので、しかも日本で上梓したのは『黎氏三家詩詞』（日本使署刻本 5冊。付録1第26）という本が見られるが、さらに重要と思われるものはつぎの2種である。

『増修互注礼部韻略』 5巻 （付録1第67）

『金石目録』 1巻 （付録1第82）

二書がいずれも楊守敬の蔵書であることは、書の中に書いてあるメモおよび蔵書印から分かる。『増修互注礼部韻略』には、

此日本重刊元至正乙未日新堂本、審其紙質、当是日本五山所刊。奮為小島尚質寶素堂所蔵、余從斎藤兼三得之、今以歸、木斎兄得其所矣。丙戌夏四月十三日宜都楊守敬記
という題記が見られ、さらに「楊守敬印」という印がある。一方の『金石目録』の巻末には、
野口布之所蔵、加賀藩士撰

とあり、その傍らに「楊守敬印」、「宜都楊氏蔵書記」、「飛青閣蔵書印」の三つの印がある。つまり、二書ともに楊守敬が日本で購入したものであるのは明らかである。

楊守敬の蔵書がどのように重慶図書館に入ったかについて、図書館の関係者に聞いたが手がかりを得ることはできなかった。黎庶昌が重慶で官職に就いたこととあるいは何らかの関連があるように思われる。

この調査のもう一つの重点とするところは四川大学博物館である。1914年に設立された同博物館は中国でもっとも歴史の長い博物館の一つであり、また中国の大学の中で唯一の総合博物館である。現在館長を務めている霍巍教授にインタビューしたところ、博物館に数十件の日本の品物（主に紙と工芸品である）が所蔵されていることが判明し、それらの品物のリストも入手した（付録2参照）。これらの品物の来歴について、はっきりした答えを得なかったが、戦前成都に住んでいた西洋人のコレクションであるようである。同博物館に日本を専

門とするスタッフがいないので、品物の鑑別を行っていないというのが現状である。また、それらの日本の紙や工芸品をメインに博物館が展覧会を開いたことはあるが（1993）、現地ではさほど影響がなかったようである。

現段階での結論 四川省が中国の内陸に位置するため、東北地域、江南地域と較べて、古い時代から近代に至るまでの長い間、日本と頻繁な文化交流関係がなく、日本の文物や書籍がさほど多くないのが現状である。しかし、19世紀後半に、黎庶昌、楊守敬などの代表的な官僚知識人が日本へ渡り、多くの文物や古籍をもち帰ったのは周知の事実であり、その二人はけっして四川省と無縁な存在ではなかった。今回の調査では、黎、楊ゆかりのものを捜すことに重点を置き、その結果、『増修互注礼部韻略』、『金石目録』など重要な価値を有するものを見つけることができた。一方、四川大学博物館で入手した日本の紙や工芸品のリストから見れば、四川省では20世紀初頭に日本のものを収集する人が存在していたことが判明した。従って、今後の調査方向は、黎庶昌など日本と深い関わりをもつ文人、また日本文物コレクターの二つに焦点をしぼり、進めていくべきであろう。

付録1 重慶市図書館歴史文献中心所蔵日本関係書目（戦前）

1. 世界近世史 明治34 松平康国 編 中国国民叢書社訳 2冊
 2. 亜細亜建設者 大川周明 昭和16
 3. 日本全史 高谷款夫 教育世界社 16冊
 4. 大日本中興先覚志 二巻 1901 岡本監輔
 5. 大日本維新史 重野安繹 明治13 善隣訳書 2冊
 6. 逸史 12巻 中井積善 天保13 懷徳堂 13冊
 7. 日本維新慷慨史 西村三郎 編 趙必振訳 1902 上海広智書局
 8. 日本維新三十年史 博文館編 1902 上海広智書局
 9. 土耳其機史 北村三郎 編 趙必振訳 1890 広智書局
 10. 欧羅巴通史 箕作元八 峰岸米造 纂 胡文瀾訳 1900 成都同仁会 4冊
 11. 希腊史 二巻 桑原啓一 纂訳 中国国民社重訳 光嶋29 上海
 12. 19世紀外交史 平田久撰 張相訳 光緒28年 史学齋刊行
-
1. 大日本中興先覚志 2巻 1901 岡本監輔
 2. 靈枢識 6巻 丹波元簡 1808 躋寿館
 3. 隔鞞論 塩谷世弘 1859 快風堂
 4. 遺山先生詩鈔 2巻 垣内保定 1836 世寿堂
 5. 鴻爪詩集 6巻 落合庚子 1858 飢肥書肆有濟館
 6. 支那史要 6巻 市村瓊次郎 陳毅訳 1902 上海広智書局

1. 文選集注 京都大学文学部 1942 3冊
2. 新刊外科正宗 4卷 (明) 陳宝功 撰 寛政辛亥1791 芳蘭榭刊本 4冊
3. 諸大家人物画譜 日本京都雲草堂 木刻彩色套印本 1冊
4. 論語語由 20卷 亀井魯 著 明治13 大阪書林華井聚文堂 10冊
5. 論語徵集覽 20卷 付録1卷 松平寛 輯 宝暦10年 觀涛閣藏板 20冊
6. 一切經音義 100卷 (唐) 釈慧琳 撰 元文3年 獅谷白蓮社刻本 50冊
7. 二李唱和集 (宋) 李昉 李至合著 1889年 陳氏於日本影判本 1冊 別集
8. 玉機微義 50卷 (明) 徐彦純 撰 劉純 統補 日本重刻本 10冊
9. 玉篇 (梁) 顧野王 1884年黎庶昌於日本使署景刊本 2冊 (古逸叢書之16)
10. 玉篇 (梁) 顧野王 1884年 影刻卷子本 1冊 (此書為『玉篇』第27卷中「糸部」的前半部分)
11. 靈樞識 6卷 丹波元簡 1808 躋寿館 12冊
12. 覆元槩古今雜劇三十種 京都帝国大学文科大学 輯 大正3年 5冊
13. 靄莊藏古璽印〔園田君〕編 昭和6年 2冊
14. 水滸伝 成島柳北 閱 伊達国成 土生柳平 校 1883 東京相悦堂 13冊
15. 群書治要 50卷 (唐) 魏征 天明7年 尾張国刊本
16. 改正淮南鴻烈解 21卷 (漢) 劉安 寛政10年 浪花書林炭屋五郎兵衛 10冊
17. 愛軒文稿 愛軒服部 著 明治35年 山上宗兵衛 鉛印 1冊
18. 毛詩 江戸末期 3冊
19. 卓氏藻林 (明) 卓明卿 元禄11年 攝揚名倉翰林堂 8冊
20. 毛詩名物図説 9卷 徐鼎 文化5年 養真堂刻本 2冊
21. 貞觀政要 鳥飼市兵衛 刻本 10冊
22. 東京夢華録 孟元老 諸橋徹治 編 昭和16年 2冊
23. 統一切經音義 10卷 (遼) 希麟 延亨三年 獅谷白蓮社刻本 5冊
24. 朱竹垞文粹 6卷 朱 尊 撰 村瀬誨輔 編 天保5年 大坂岡田群玉堂 6冊
25. 御製耕織図詩 清聖祖 撰 明治16年 大阪響泉堂銅版刻本 2冊
26. 黎氏三家詩詞 黎庶昌 輯 日本使署刻本 5冊
27. 傷寒論文字考統編 2卷 伊藤馨 著 1853 蘇堂刻本
28. 儀礼 17卷 鄭玄 日本刻本 印:傅氏双鑑楼珍藏
29. 儀礼経伝通解 37卷 朱熹 寛政9年 20冊
「上海四馬路楽善堂蔵板」また「傳増湘読書」の印あり。
30. 瀛環志略 徐繼畲 井上春沢 訓点 文久元年 阿陽村崑閣 10冊
31. 扁鵲倉公列伝割解 2卷 滕惟寅 割解 男正路 補考 明和7年 文泉堂積玉甫刻本 2冊
32. 宋大家曾文定公文抄 10卷 慶応元年 5冊
33. 補標史記評林 130卷 (明) 凌稚隆 李光縉増補 有井範平補標 17冊
34. 冲虚至徳真經 8卷 (晋) 張湛 寛政3年 鳳城書肆勝邑治右衛門 4冊
35. 清嘉録 12卷 (清) 顧禄 撰 安原寛得衆 校 青雲堂 天保8年 5冊
36. 礼記 20卷 江戸末期 4冊

37. 鴻爪詩集 6卷 落合庚子 1858 有濟館
38. 祖庭事苑 8卷 (宋) 陳善卿 編 二条通鶴屋町田原仁右衛門 梓行 正保4年1647
刻本 4冊
39. 逸史 12卷 同関子 撰 文政元年 (1818) 12冊
40. 逸史付録一卷 同関子 天保13年 (1842) 13冊
41. 通雅 52卷 方以智 立教館刊本 28冊
42. 資治通鑑 石川元助 土井有恪 校 100冊
43. 十三經疏影譜 長沢規矩也 編 1934
44. 大戴礼記補注 13卷 (清) 孔広森 注 文化3年 (1806) 官版書籍發行所
45. 大日本中興先覚志 岡本監輔 1901
46. 太平御覽 (宋) 李枋 文久元年 (1861) 聚珍版影印 153冊 有「金沢文庫」牌記
「邨嘉平刻」
47. 南齊書 荻生宗右衛門 点 元禄16年 (1703) 松会堂 5冊
48. 古史微 4卷 平田篤胤 著 文政2年 (1819) 4冊
49. 古史学变 3卷 伊藤長胤 著 寛延3年 (1750) 浪華書林群玉堂 梓
50. 七經孟子考補遺 199卷 山井鼎 著 物觀補遺 享保16年 (1731) 東部書林松会三四郎
32冊 (4函)
51. 犬羊集1卷統集1卷 (清) 瑞洵覚遲 著 鈴木吉武 編 昭和10年 餐菊軒 1冊
52. 落飄樓文稿 4卷 (清) 沈垚 日本古鈔本
53. 菱湖書簡選附楷書 杉山令吉 編 大正5年 早稲田大学出版社
54. 韓非子 20卷 寛政7年 (1795) 大阪書林柏原屋 10冊
55. 韓非子全書 20卷 藤沢南岳 校疏 明治17年 (1884) 大阪府浪華温故書屋
松村九兵衛 刊本 10冊
56. 韓非子解 詰21卷 卷1卷 末1卷 津田鳳卿 撰 文化14年 (1817) 宝文堂
57. 荀子 延享2年 (1745) 平安書林翻刻 10冊
58. 老子釋解 2卷 皆川願 撰 寛政9年 (1797) 2冊
59. 荀子 20卷 補遺1卷 (唐) 楊京 注 善庵朝川 校 天保元年 (1830) 8冊
60. 荀子 20卷 久保愛 増注 猪飼彦博 補遺 文政8年 (1825) 平安書林水玉堂 11冊
61. 老子全解 5卷 大田敦叔復 著 柴田定保 校 明治27年 文淵堂 重修 5冊
62. 世說觀音 10卷 恩田仲任 輯 磯谷正卿 校 文化13年 (1816) 東璧堂 5冊
63. 葛氏点陸宣公奏議 4卷 (唐) 陸贄 富岡百煉 校 明治3年 (1870) 三都書肆 8冊
64. 楚辭 劉向 寛延3年 (1750) 青木高山堂刻本 4冊
65. 杜律分韻 5卷 璃文院 彙編 2冊 (内閣新編)
66. 觀聚方要補 10卷 丹波元簡 聿修堂 10冊
67. 増修互注礼部韻略 5卷 (宋) 毛晃 注 毛居正 重増 五山刊本
68. 乾隆京城全図 興亜院華北連絡部政務局調査局 編 1940 北京新民印書館景印 17冊
69. 梅嶺百鳥画譜 幸野煤嶺 絵 1884 東京書林錦榮堂 6冊

70. 趙注孫子 5卷 (明) 趙本学 解 窪田清音 訂 文久2年 (1863) 亦西齋 4冊
71. 史記評林 130卷 首1卷 (明) 凌稚隆 輯 李光縉 增補 焯有光 評点
方苞增評 石川鴻斎 輯補 明治24年 (1891) 三松堂、松榮堂刻本 25冊
72. 春秋経伝集解 30卷 10冊
73. 書史会要 9卷補遺1卷 (明) 陶宗儀 日本抄本 6冊
美濃紙 「館氏石黍齋珍蔵図書記」長方印あり
74. 日本全史 22卷 高谷款夫 教育世界社 影印本 16冊
75. 墨子畢校 5卷 田沢仲舒 天保12年 (1841) 函崎文庫抄本 5冊
76. 晦庵先生朱文公文集 100卷 2冊
77. 隔鞞論 塩谷世弘 安政6年 (1859) 快風堂刻本 1冊
78. 脈学輯要 3卷 丹波元簡 寛政7年 (1795) 聿修堂 1冊
表紙に「櫛窓多紀先生著 江戸萬汲堂發行」とある
79. 陀羅尼字典 釈円山達音 纂 中島守真 続纂 明治31年 德音堂刻本 2冊
80. 周礼12卷 3冊
81. 塩溪紀勝 4卷 奥三郎兵衛 明治23年 (1890) 読仙書屋 4冊
82. 金石目録 1卷 加賀藩士 撰
83. 金壺記 3卷 (宋) 积適之 撰 諸橋徹治 輯 1939年 便利堂 景宋本 3冊
84. 鉄斎先生遺墨集 3卷 田中伝三郎 纂 大正14年 京都便利堂
85. 竹田先生画譜 京都博物館編 1929 京都便利堂 2冊
86. 竹田翁九晝画冊 金山痴庵 輯 1933 東京大塚巧芸社 影印 1冊
87. 箋注唐賢詩集 3卷 王士禎 選 近藤元梓 増評 明治38年 大阪嵩山堂
88. 纂喜盧叢書 傅雲龍 1889 東京景刊本
①論語10卷 (魏) 何晏 集解 付録 黎庶昌 扨唐卷子本景刊
②新修本草残11卷 (唐) 李勣 小島知足 輯補 扨唐卷子本景刊
③文選残1卷 日本延嘉平景刊
④陶文戯1卷 (晋) 陶潜 扨唐卷子本景刊
89. 尚書13卷 日本刻本 江戸末期 2冊 傅氏「双鑑楼珍藏」印
90. 尚書正義20卷 弘化4年 (1847) 熊本藩時習館影刻宋越州本 20冊
91. 尚書正義20卷 1943 京都東方文化研究所 8冊
92. 尚書残卷 毛詩二南残卷 京都帝国大学文学部 編 1942 2冊
93. 省亭花鳥画譜 渡辺省亭 絵 1892 3冊

付録2 四川大学博物館日本關係藏品リスト

名 称	件 数
1. 日本雁皮大正時造紙	1
2. 日本奏書卷紙	1
3. 日本鳥子紙（倣唐製黃雲如題）	1
4. 日本鳥子紙	1
5. 日本水玉紙	1
6. 元代日本殼皮紙	1
7. 日本葉袋紙	1
8. 礬水引薄美濃紙	1
9. 日本松皮紙	1
10. 日本紙	1
11. 日本白雲紙	1
12. 日本倣唐雲章紙	1
13. 日本大雁皮紙	1
14. 日本紙	1
15. 日本芦根紙	1
16. 日本雁皮紙	1
17. 日本紙	1
18. 日本芦根紙	1
19. 日本稻稈紙	1
20. 礬水引薄美濃紙	
21. 日本浪紋方金紙	
22. 広平内史字条軸	1
23. 藤野貞子送黎庶昌序横披	1
24. 清国欽差大臣黎公夫人趙氏藏誌銘	1
25. 藤野貞子草書手卷	1
26. 中村不折行書条軸	1
27. 三条実美字条軸	1
28. 日本承保貞利応永三朝文書条軸	1
29. 日本宮島彦条軸	1
30. 日本松涛行書軸	1
31. 日本玉織女史著色山水手卷	1
32. 無題日本仕女図軸	1
33. 日本喜遷生人物軸	1
34. 日本古劍太刀図（明）	2

35. 日本古劍太刀図	1
36. 日本画	18
37. 日本織絨画	4
38. 日本村瀬諸拙尊園図横披	1
39. 日本麦仙山水横披	1
40. 誉勝画花卉軸	1
41. 日本本陽人物画軸	1
42. 玉丹花蝶図軸	1
43. 織錦三友図掛軸	1
44. 織絨風景絨壁掛	2
45. 織絨神社図堂幅	1
46. 織絨花鳥蘭地絨小堂屏	4
47. 織絨花鳥蘭地絨小堂屏	4
48. 繡画人物做麻壁掛	1
49. 竹鎮子	1
50. 棕竹手枕	1対
51. 仕女手枕	1
52. 仕女手枕	1
53. 粉彩龍柄龍流壺	1
54. 青花碗	2
55. 金緑彩叢竹紋把杯	2
56. 金緑彩叢竹紋盤	2
57. 金緑彩叢竹紋盤	2
58. 青花五彩团龍暗八仙碗	1
59. 青花五彩龍鳳紋盤	1
60. 紅緑彩菩薩花卉口瓶	1
61. 金彩葡花杯	6
62. 金緑彩叢竹碗	1